第１３回久喜市生涯学習研修大会

「まなびすとフォーラム」報告書

開催日：令和７年６月７日（土）

会　場：久喜市鷲宮行政センター生涯学習施設

大会テーマ：「寄り添う、地域・学校・家庭」

生涯学習研修大会概要

１．　開会式・来賓あいさつ

２．　主催者あいさつ

３．　フォーラム内容

４．　グループ討議の要約

５．　アンケート結果のまとめ

６．　講評とあいさつ

７．　添付資料：グループ討議結果

主催：久喜市生涯学習推進会議・久喜市生涯学習推進部

久喜市教育委員会

製作・発行：久喜市生涯学習推進部

１．開会式・来賓あいさつ

久喜市長
梅田　修一　様

久喜市議会議長
上條　哲弘　様

埼玉県議会議員
石川 忠義　様

埼玉県議会議員
梅澤　佳一　様

２．主催者あいさつ

久喜市生涯学習推進会議推進部委員長

井上　日出子

要約：地域共生社会へ向けて

第１３回「まなびすとフォーラム」開会の挨拶

皆様こんにちは。本日はお忙しい中、第 13 回「まなびすとフォーラム」にご参加頂きましてありがとうございます。再び皆様と、机を囲む事が出来ます事に、感謝申し上げます。今回のテーマは「寄り添う、地域・学校・家庭」で討議をお願い致します。以前は、介護やケアの現場で「寄り添う」と言う表現が良く使われていましたが、最近では、至る所でこの寄り添うと言う表現を耳に致します。

寄り添うとは、相手の考え、立場を理解し、それぞれの立場に向き合い、考え続ける姿勢です。「地域、学校、家庭」がかかえる問題は多様化しております。「バリア（障壁)」を越えて考えて行くことが重要です。

良い街が、良い学校を作り、良い学校が良い人材を作る、人材作り、仕組み作り、それぞれの立場で力を合わせる事で、地域共生社会を築けるのではないでしょうか。市内小中学校の教職員・保護者様、社会教育委員・コミュニティ協議会様、市内高校の生徒様、加えて市民大学生高齢者大学生を交えてのグループ討議をして頂き、より良い久喜市の為に、皆様の活発な御意見を期待しております。そして、本日の貴重な御意見は行政へと上げて参ります。どうぞ宜しくお願い申し上げます。これで開会のあいさつとさせて頂きます。

３．フォーラム内容

１）討議風景

２）討議結果発表風景

４．グループでの討議結果の要約（キーワード集）

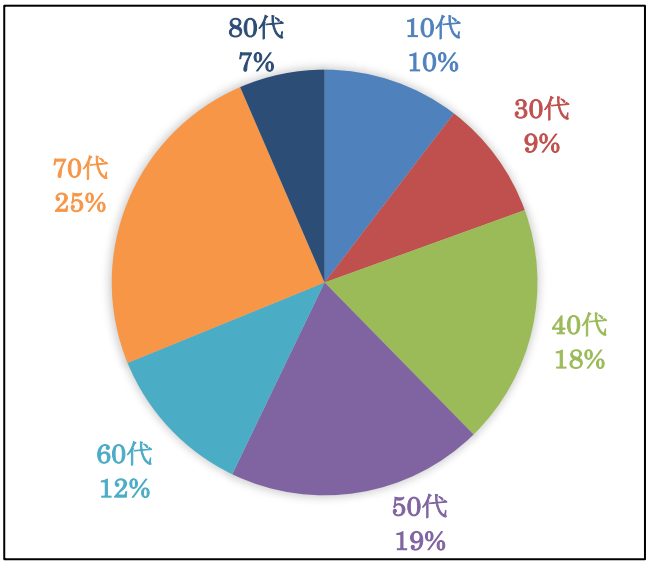
	1	2	3	4	5
1グループ	**学　校**	**地　域**	**ボランティア**	**家　庭**	**課　題**
	教育の研修に地域活動を導入	地域イベント参加	ゆうゆうプラザ参加	共稼ぎ家庭が多い	問題を共有し解決策を実行！！
	行事に地域住民参加	公民館の活用	運動会参加	子どもが少ない	
	高齢者とのコミュニケーションをとる	インターンシップや実習体験	地域内の交流	地域との繋がりが少ない	
2グループ	**学　校**	**地　域**	**ボランティア**	**現状取り組み**	**課　題**
	部活が人数不足で成り立たない	中学校との関わりが分からない	登下校の見守り	登下校時の挨拶	みんなが集まれる集会場等の大切さ
	通学路の安全性	寄り添う集会場をなくさない	環境整備（資源回収・除草参加等）	顔見知りを作る	
	地域清掃参加	指導者を期待	災害等の対応	部活動の指導	
3グループ	**学校から地域へ**	**地域から学校へ**	**ボランティア**	**現状取り組み**	**課　題**
	強力要請発信	イベント参加	ゆうゆうプラザ参加	ゆうゆうプラザ参加	高齢化が進んでいるため、部会組織を作る 例：子ども、防災、福祉部会等
	地域を巻き込んだ新教科創設	小中高の交流	高齢化が心配	中高校の参加	
	PTAエリア地域組織作り	PTA組織の検討	学校行事への参加要請が少ない	校外学習、学校応援団参加	
4グループ	**寄り添うとは**	**地　域**	**ボランティア**	**寄り添いの現状**	**課　題**
	立場の違い、多様性の違い	コミュニケーション	ゆうゆうプラザ参加	中学生への命の授業、外国人の方へ日本語教室、子育て相談会等	困ったときに、困ったと言える環境作り。お互いを知ること。
	心の寄り添い	行事参加	見守り、挨拶		
	利他の精神	関わりを持つ	環境整備、除草作業等		
5グループ	**学　校**	**地　域**	**ボランティア**	**あいさつ**	**課　題**
	学校校則が時代に即してない	地域の繋がりが希薄	ゆうゆうプラザ参加	あいさつで交流	校則において、靴等指定をなくすと、かえって親が迷う（価格、安全性等）
	タブレット学習が問題	街灯が少ない	見守りボランティア	情報交換をして一人一人が触れ合う	
	靴指定は問題	PTAと地域を繋ぐ	声かけ、挨拶の継続		

	1	2	3	4	5
6グループ	**学　校**	**学　校⇔地　域**	**ボランティア**	**地域・家庭**	**課　題**
	開門時間を早めてほしい。登校時間の多様化	学校を利用した地域イベント	ゆうゆうプラザ参加	情報交換をして、関わりを持つ	安全と健全の確保。感性豊かな子どもの育成⇒町の宝、地域の宝
	教員の負担軽くする	草刈り、ゴミ拾いなど、地域の中の一員であると自覚する	子ども食堂の活用	コーディネーターとして、地域・学校・市民大学を利用	
	PTA活動の簡素化		高齢者に対し、出来ない事をカバーする		
7グループ	**学　校**	**地域の関わり方**	**ボランティア**	**あいさつプロジェクト**	**課　題**
	環境整備・見守り	イベント参加	小中高の交流	あいさつから始める	ハードルを下げる（寄り添う）地域と関わる場を創り出す。何をするかでなく、何のためにするか。
	行事参加	ゴミ拾い	昔遊びを教える	多くの人を巻き込む	
	体験学習	地域の安全点検	ゆうゆうプラザ参加	顔見知りを作る	
8グループ	**学　校**	**地　域**	**ボランティア**	**地域・家庭**	**課　題**
	環境整備・見守り	協働・共創へ	ゆうゆうプラザ参加	関係作り	核家族、少子化、子どもが忙しすぎる、情報が多すぎるなど
	行事への参加、情報交換	高齢者の増化が心配	学習支援・情報交換	隔たりを作らない	
	声かけをする	相手を思いやる	登下校の見守り	関心を持つ	

全グループの発表内容と、発表資料を基に、一覧表に致しました。
幅広い年齢層と、各分野の方の意見から、全グループとも学校と地域と家庭を繋ぐ共通点は、気軽に声をかけ、困ったときに困ったと言える関係づくりが、寄り添う第一歩との考えでした。
学校の働き方改革、地域・家庭の関わり方など、すべての主体が連携を密にすることが、このテーマのキーワードでした。

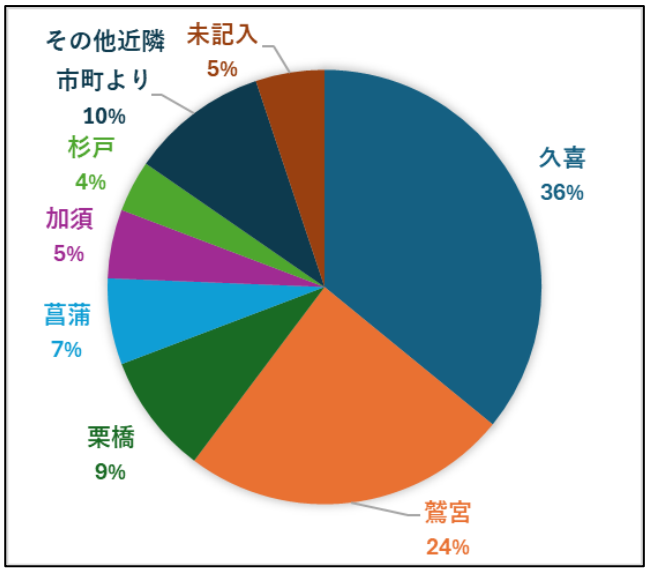
５．アンケート結果のまとめ

１．参加者の年代



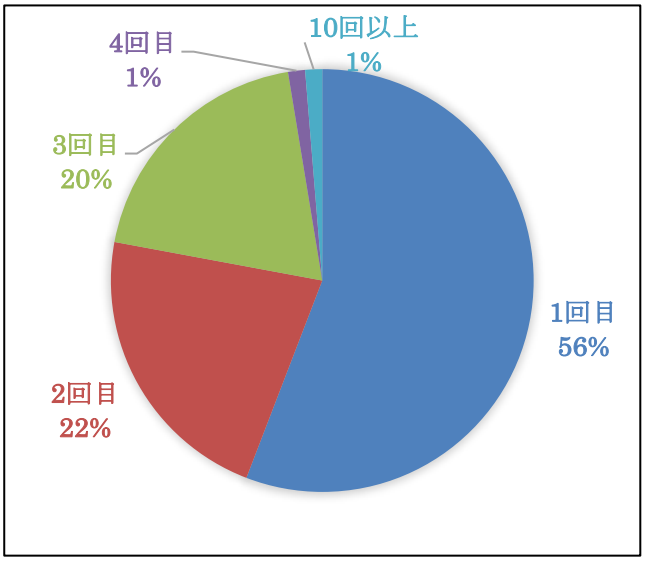
幅広い世代の皆さんにご参加いただきました。７０代が一番多いものの、３０代～６０代で半数を超える５８％の参加をいただきました。また、１０代の高校生の参加も、フォーラム活性化の一要因となりました。

２．参加者の居住区



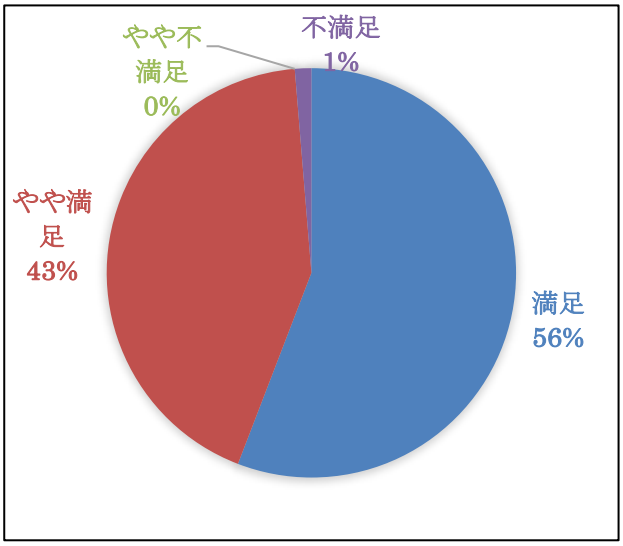
旧久喜地区、鷲宮地区、栗橋地区、菖蒲地区と久喜市内の参加者の合計が７６％でした。市内に勤務し、本フォーラムに参加してくださった方々が、全体の４分１でした。

３．参加者のフォーラム参加回数



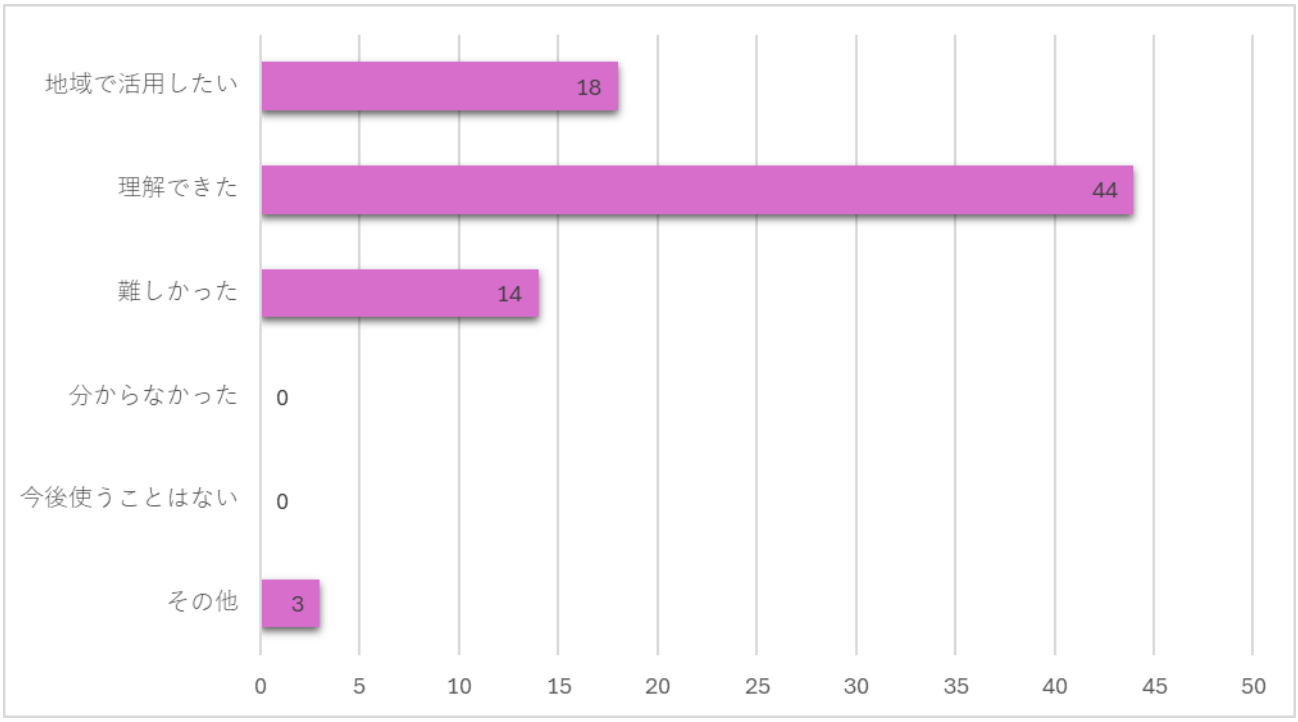
初めてフォーラムに参加していただいた方々が５６％と半数を占めました。市民大学や高齢者大学からの参加の方々は、２回～３回とご参加いただき、地域の生涯学習活動をご理解いただいています。

４．フォーラム参加に関する満足度



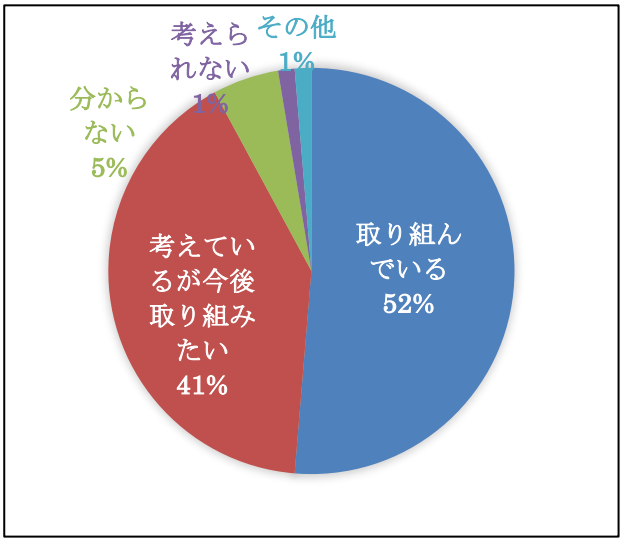
満足・やや満足という肯定的な評価を９９％いただきました。満足いただいた、その先の生涯学習活動となるように、フォーラムのあり方や方法を今後も工夫してまいります。

５．ワークショップの実施方法（回答数）



理解できた・地域で活用したいという肯定的なものが７割ありました。一方、難しかったと答えた割合は、高校生に多く、地域のことを大人と話し合うことが、初めての生徒が多いため、そのように感じたと思われます。しかし、当日の高校生の力は大きく、フォーラム全体にとっても欠かせない存在となりました。（表中のその他には、「新たな課題が見つかった」「もう少し時間が欲しい」等の意見が含まれます）

６．参加者の生涯学習に対する考え（態度）



生涯学習に向かう態度としての回答に、現在取り組んでいるとの回答が５２％（主に６０代～７０代の回答）。今後取り組みたいと考えているとの回答が４１％（主に１０代～５０代の回答）でした。

記述いただいたご意見

①高校生の参加はとても良いと思います。テーマの理解から、今後の成長にもつながり、たくましさも感じました。

②参加させていただきありがたかった。このように多数の大人と話すような機会は普段ないため、このような企画を増やしてほしい。

③意外とボランティアをしたいという学生は多いと思うので地域のためにもかかわっていきたい。

④グループ討議の時間を９０分から６０分に短縮しても良いのではないか。中身の濃い意見が出ると思います。貴重な機会をありがとうございました。

６．講評とあいさつ

久喜市生涯学習推進会議議長 影山悦夫

こんにちは。

私は「講評」などと言うものでなく感想を申し上げたいと思います。

皆さんは上尾市にある埼玉県立「スポーツ総合センター」をご存知でしょうか? 時々その施設に行く機会がありますが、実は、トイレの中に名言が印刷された物が貼ってあります。その一つは、マンガのスラムダンクに登場する安西先生の『お前のためにチームがあるんじゃねぇ。チームのためにお前がいるんだ』というものです。スポーツ関連施設だからこその名言ですが、今回のこのフォーラムのテーマ「寄り添う、地域・学校・家庭」に必ずしも当てはまるとは言い難いかもしれませんが、「あなたのために地域・学校・家庭がある。地域・学校・家庭のためにあなたがいるんだ」と言い換えることもできるかなぁと感じました。

もう一つご紹介させて頂きますと、元南アフリカ大統領のネルソン・マンデラ氏の『生きる上で最も偉大な栄光は、決して転ばないことにあるのではない。転ぶたびに起き上がり続けることにある』という名言です。人生の中で何回も何回も転んでは起き上がり、起き上がっては転んでの繰り返しを経験された方も数多いと思います。その時、人や物が、又はそれらに代わる何かが「寄り添う」ことをしてくれたのではないでしょうか? 地域・学校・家庭などの自分を取りまく何らかの寄り添いにより『生きる上で最も偉大な栄光』を私たちは手にしていることと思います。

また、発表の中に「地域に帰ってきて営み続けることのできる環境(地域)づくりが大切だ」という高校生のご意見がありましたが、まさにその通りで、帰って来ただけでなく、営み続けることができる環境を構築することが必要ではないでしょうか。本日このフォーラムに参加してくださった皆様が先頭に立ち、そのような環境づくりに邁進してくださることをご期待いたします。

最後にこのような場を提供してくださった生涯学習推進部の皆様、生涯学習課の職員の皆様、そして何よりもこのフォーラムに参加して頂いた皆様に心より感謝とお礼を申し上げたいと思います。ありがとうございました。

７．添付資料：グループ討議結果

１） グループ発表資料

目　　次	ページ
第　１グループ	１０
第　２グループ	１０
第　３グループ	１１
第　４グループ	１１
第　５グループ	１２
第　６グループ	１２
第　７グループ	１３
第　８グループ	１３
２） フォーラム統計資料	１４

討議は、10～70 歳代の幅広い年代の 11～12 人のグループ構成で行いました。異なる考え、意見を世代間で共有できたでしょうか？

第１グループ発表資料：

（寄りそう地域・学校・家庭）

第２グループ発表資料：

（寄りそう地域・学校・家庭）

第３グループ発表資料：

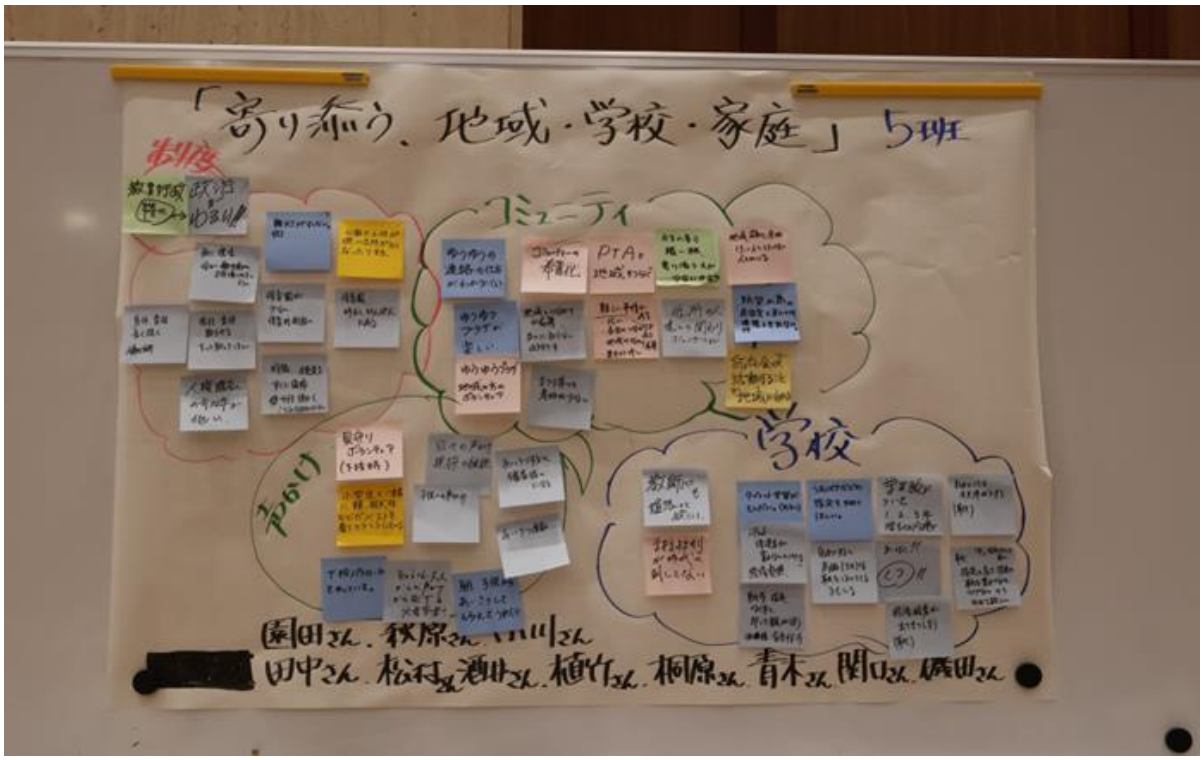
（寄りそう地域・学校・家庭）

第４グループ発表資料：

（寄りそう地域・学校・家庭）

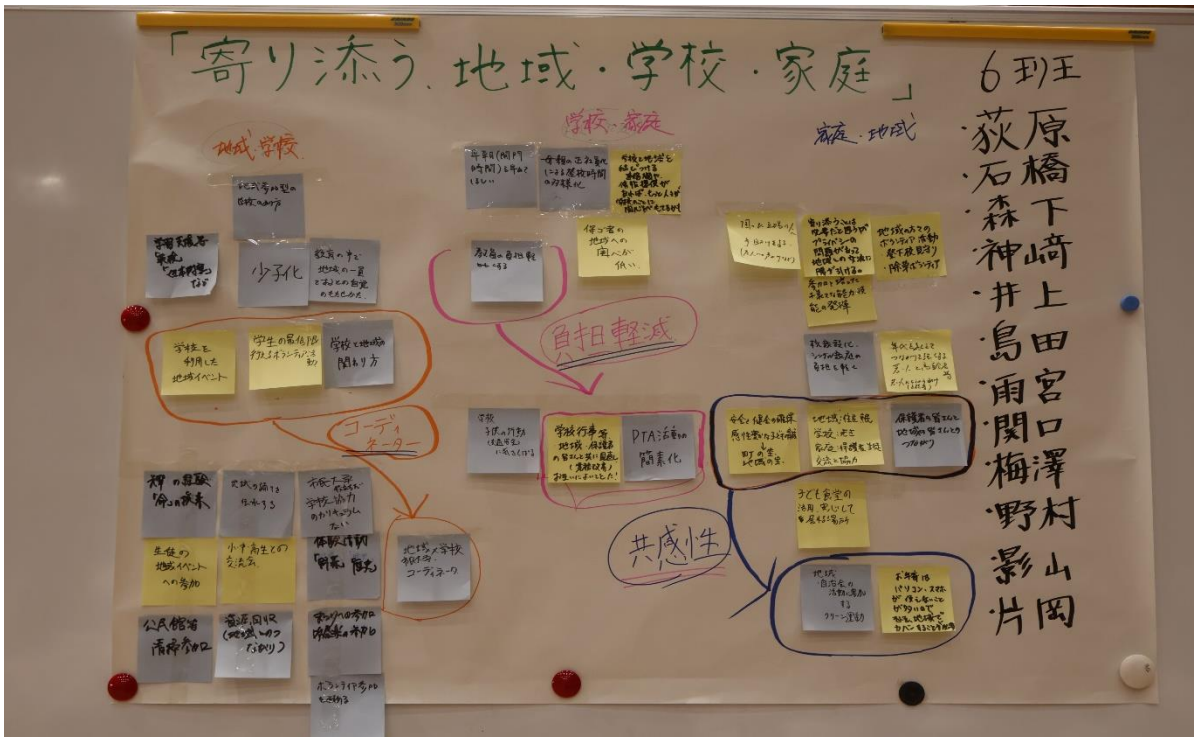
第５グループ発表資料：

（寄りそう地域・学校・家庭）



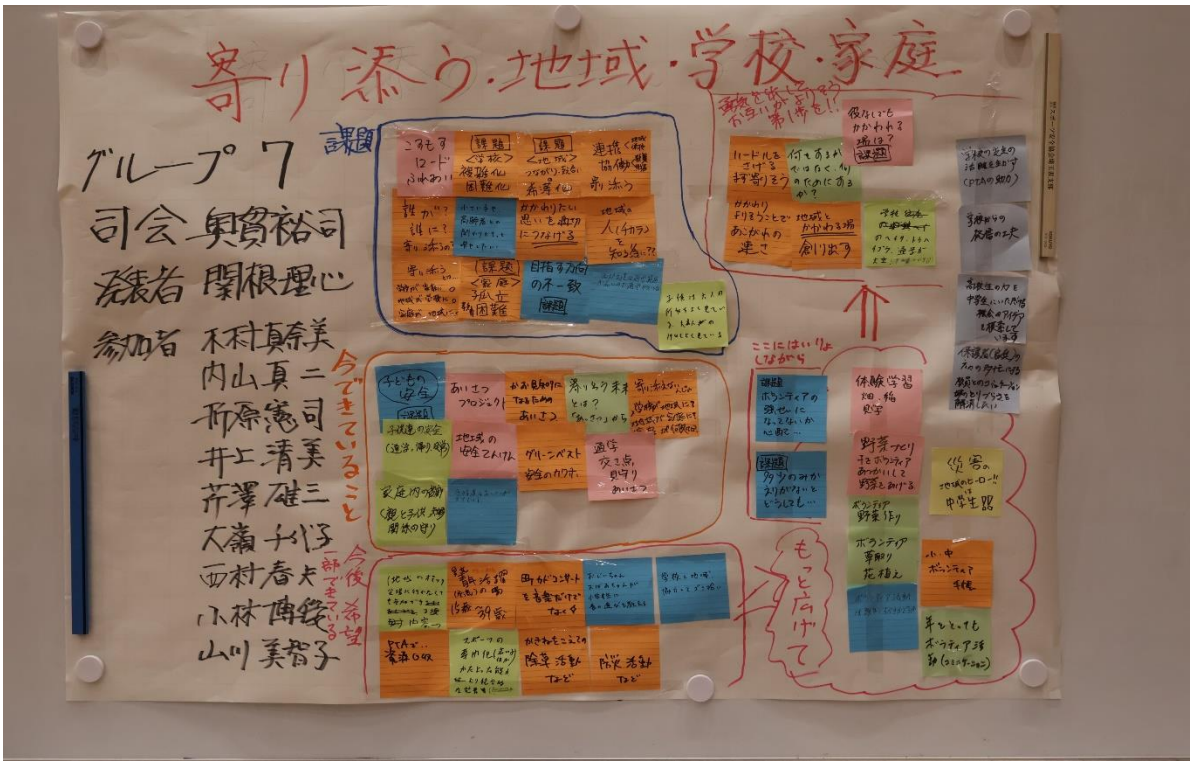
第６グループ発表資料：

（寄りそう地域・学校・家庭）



第７グループ発表資料：

（寄りそう地域・学校・家庭）

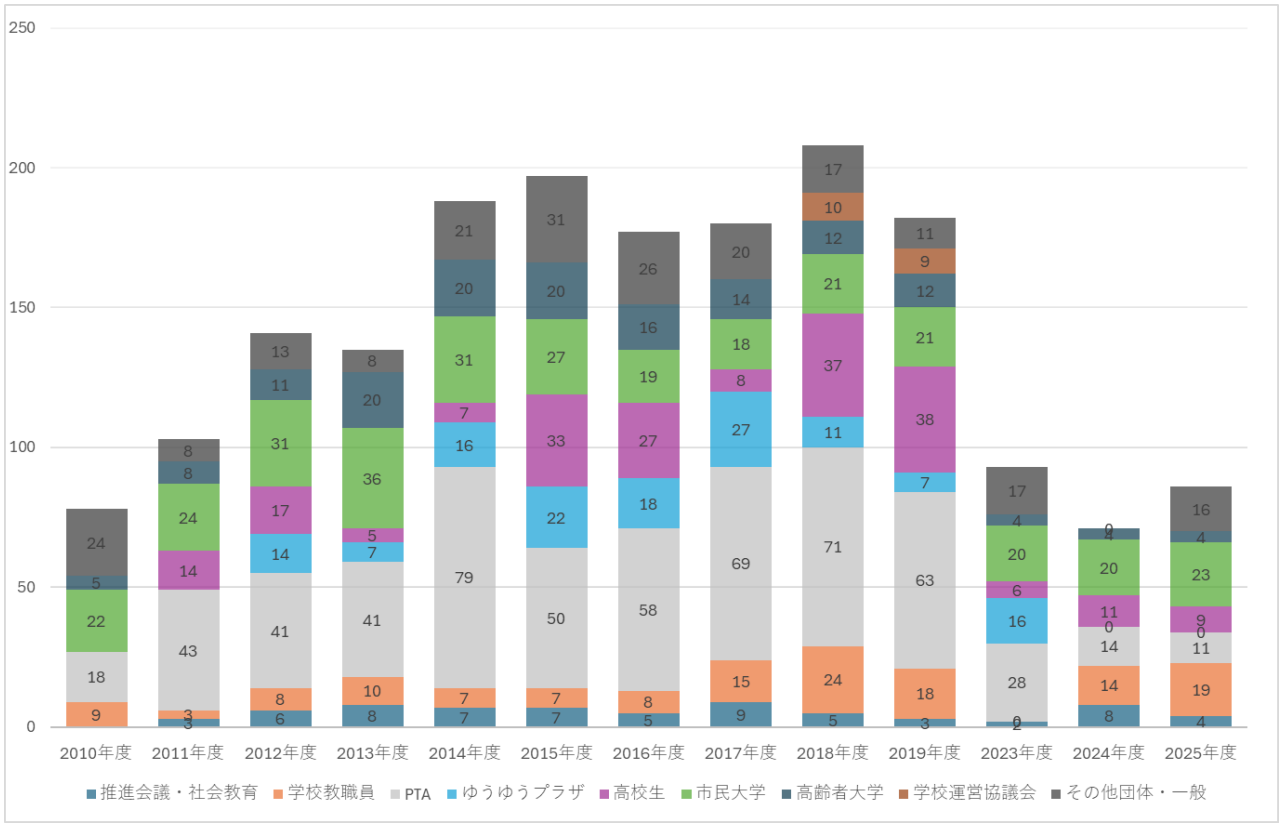


第８グループ発表資料：

（寄りそう地域・学校・家庭）

フォーラム統計資料

第１３回まなびすとフォーラム：年度別所属団体参加人数推移



編集後記

第１３回「まなびすとフォーラム」にご参加頂き、また、ワークショップにおいて、貴重なご意見を頂きありがとうございました。

今回の「まなびすとフォーラム」では、教職員の方々に、多数の参加をいただきました。また、高校生が積極的に討議に参加する姿に、推進部のみならず、参加者全員が元気をいただきました。

久喜市全体として、「生涯学習」を推進していくためには、このような次世代の力も取り入れ、地域として社会教育をしていく必要があると感じています。

今回の高校生の積極的な討議への参加はその未来を明るくするものと感じました。

生涯学習推進部委員、生涯学習課の方々のご協力により、第１３回の報告書が完成致しました。

このような生涯学習の推進を持続可能なものにしていくために、今回の資料や、スキルを活かしつつ、地域での推進力となり、活躍してくださることを期待しております。

本報告書は、皆様に討議結果をそのままお届けし、将来に向けて考えて頂く材料を、正しくご提供することが大切だと考えて作成致しました。

最後になりますが、当日ご参加下さった皆様に改めてお礼を申し上げます。

第１３回まなびすとフォーラム（学社連携部会：桐谷　光男）